出雲中央図書館の枯山水庭園「福寿園」

出雲中央図書館の横（西側）に広がる和風庭園「福寿園」は、昭和の代表的作庭家・重森三玲氏の長男で作庭研究家の重森完途氏によって作られた庭です。元々は、島根県立中央病院にあった庭で、昭和５９年１１月に出雲市立図書館に移築されたものです。

図書館の福寿園は、赤い屋根が特徴的な建物の西側に芝生が広がり、その中に白砂による曲水や青石による石組が配置された枯山水となっています。

赤い屋根が映える出雲中央図書館と福寿園

館内から色々な視点で楽しめる回遊式枯山水庭園で、建物のすぐ横と北西の出雲大社を望む方向に大きな立石が配されています。

枯山水庭園の福寿園

昭和６０年にはブルガリアで行われた「世界建築ビエンナーレ」の庭園部門で金賞にノミネートされました。

庭の南西隅には、田部長右衛門氏による「福寿園」の書が彫られた標石が建っていて、その背面の説明板には次のように記されています。

この庭園は重森完途先生の設計施工によるものである。庭石は島根県立中央病院の庭にあったものでありその庭園は当時の県知事田部長右衛門氏によって“福寿園”と名づけられた。図書館は学術文化を吸収するところでありそれに相応した休息の場が必要である。
出雲の重厚な歴史を背景に出雲の自然を表現されたこの庭園の中に憩いと安らぎを求めていただければ幸いである。
その上に重森完途先生の芸術にふれこの庭園が末長く昭和の名園として市民に親しまれ育てられることを希うものである。

昭和五十九年十一月一日

出雲市長　直良光洋

福寿園標石（県知事であった２３代田部長右衛門氏による命名・揮毫）